

第3回アイヌアートモニュメント設置検討会議 議事概要

【日時】平成25年5月28日（木）午後3時開会

【場所】札幌市役所本庁舎18階 第2常任委員会会議室

【出席者】

- ・委員：阿部一司委員、北原次郎太委員、津田命子委員、中原宏委員
- ・札幌市職員：長谷川利雄市民生活部長（検討会議座長）

アイヌ施策課長、アイヌ施策課企画担当係長ほか

【会議内容】

1 事務局から以下の説明があった。

これまでの会議で出された意見（資料1）について報告後、設置の目的、作品テーマの素材、作品自体の素材、設置場所、制作手法・制作者について市の考え（資料2、資料3）を説明した。

2 委員からの意見

【目的、テーマ、素材について】

- ・アイヌ民族の存在をよく理解していない人がまだ多く、そのような認識を改めてもらうものにしなければならない。
- ・アイヌ民族の歴史と文化を知り、具体的に触れて理解した上で、共生することが必要だ。
- ・札幌市の施策であるが、対象を札幌市民に限定するのではなく、もう少し広く捉えられるとよい。それによって、作品の制作方法も変わってくる。
- ・作品テーマは、若い人の意見も聞くほうがいい。
- ・作品テーマとして「言葉」は重要だと思う。
- ・札幌駅前通地下歩行空間に、アイヌ語を含むいろいろな言語で歓迎のメッセージがあるが、複数の言語で同じテーマのことを伝えることもよい。
- ・アイヌ民族をテーマにしたモニュメントだが、そこに他の民族の要素も入れ、共生していることを示すことは効果がある。
- ・言葉をモニュメントで表す手法として、刺繍を施したアイヌ文様の中に言葉を埋め込むもことも考えられる。
- ・市民参加という視点で、制作に関わった市民の名前が作品の中に取り込まれ、デザインとして成り立っている事例もある。
- ・複数の作品テーマが融合してもよい。
- ・設置条件があるので、作品テーマ、素材、場所などを組み合わせて考えるべき。
- ・金属だからといって、アイヌ民族が関わらないということはないと思う。実際に金属の作品を作っているアイヌ民族もいた。

- ・アイヌ民族が非常に豊かで芸術的な手仕事を育ててきたということを表現できればよい。
- ・北海道近代美術館のアイヌアート展が多く感動を呼んだ理由は、作品の力やレベルの高さにあったのだと思う。
- ・市民参加については、単純な作業であれば誰でも参加できる。学校の生徒などから集めて作品としたり、中核になる作品を芸術家に依頼し、その周りを市民が制作したパーツを配置し、次第にその作品を大きくするといった方法もある。
- ・市民参加を考えると、多くの人が関わった方が効果は大きい
- ・札幌市のピリカコタンのタペストリーは、アイヌ民族の女性たちが少しずつ、つなぎ合わせる方法で作られている。
- ・市民参加の方法は、作った小さなパーツを集合体にする方法があるが、形や色、デザインを決めるプロセスに市民のアイデアを入れることも参加と言える。
- ・設置場所が複数になると、市民参加の方法も可能性が広がる。

【場所について】

- ・複数の場所に設置という考えはよい。
- ・区役所などへの設置を想像すると、他の掲示物などに埋没する可能性もある。例えば専用のコーナーを設けたり、落ちついて見ることができる場が理想。
- ・札幌市の施設の一部でもよい。全ての区役所に設置しなくてもよい。
- ・設置場所に作品に関する説明が必要。
- ・設置の制約が多い中で、布はどこにでも展示できる可能性がありよい。ただ、設置場所が複数箇所あるなら、いろいろな素材があってもよい。
- ・展示後に作品周辺でアイヌ文化を学ぶイベントやコンサートなどの活用を考えるべき。また、設置する際は、そうした活用が可能な場所なのかということも考慮に入れるべき。

【その他】

- ・アイヌ民族が持っている精神文化は民族を問わず、大切にし、学ぶべきところがある。精神的なものを形にするのは難しいが、文様や造形を見ただけでは伝わらないところを補足しながら、精神文化が伝えられたらよい。
- ・1回限りで終わらずに、継続しながらアイヌ文化の歴史や文化に関わるものが市内に少しずつ増えて、市民の理解が深まることに意義がある。